



シリアの地震被災地で、シャワーや手洗い場を備えたトイレを設置。
クラウドファンディングや緊急募金でご支援くださった皆さま、
本当にありがとうございました！

トルコ・シリア地震では、トルコのみならずシリアにおける被害も深刻でした。シリアでは12年も続く紛争の影響で、人びとは今年2月の地震発生以前から人道危機に直面し、厳しい生活を余儀なくされていましたが、地震は人びとをさらなる苦境に追い込みました。7月の国連による報告では、ジェンが支援活動を実施している北西シリアでは、450万人の人口のうち90%の人びとが生きていくために人道支援を必要としています。地震ではおよそ6,000人が犠牲になり、10,400人以上がけがを負いました。また10,600棟以上の建物が損壊しました。地震の影響を受けたことや、コレラの感染拡大で、210万人の人びとが、緊急に水衛生支援を必要としています。ジェンは被災された方がたのニーズに応えるため、北西シリアの

トルコ・シリア地震 緊急支援 トイレの行列問題が解消へ シリアの避難キャンプでのトイレ建設支援へ

アル・ジャミ(Ar-Jami)キャンプで、手洗い用シンクとシャワー室、太陽光発電式の照明を備えたトイレ棟を設置する水衛生支援を実施しました。

このキャンプは紛争の被害から逃れてきた人びとのシェルターとして設置されましたが、地震の被災者もここに避難しました。地震以前は25世帯が暮らしていましたが、地震後には65世帯に増加。水衛生施設の数が十分でなく、人びとがコレラ、腸チフス、下痢等を患う恐れがありました。特に5歳未満の子どもにとって、これらの病気は命取りとなる可能性があります。緊急な支援が必要でした。皆さまからクラウドファンディングや緊急募金として託していただいたご支援で建設したトイレの設備は、被災された人びとの衛生状態の改善に寄与しています。心より感謝いたします。

支援を続けるその理由は

ジェンが、1994年に半年間、旧ユーゴスラビアでの支援プロジェクトとして誕生してから来年で丸30年を迎える。事業開始してから半年経った当時、プロジェクトを終了するかどうかを検討されたが、紛争すら終結しておらず、支援を必要とする人々が増えている中で、終わるという選択肢はなかった。

それから30年、ジェンの活動も旧ユーゴスラビアを離れ、世界各地で厳しい暮らしを強いられている方々の支援を続けている。ジェンだけではなく、多くの支援団体も各国政府も国連機関もそして個人も、世界をより良くするために、と活動を続けてきたはずだ。世界は少しでも良くなったのかと自問自答する時、残念ながら戦争が終わらないだけでなく新たな戦争が始まり、大規模な自然災害が多発し、支援を必要とする人の数が増えている事実を認めざるを得ない。では、これまでの支援は意味がなかったのか？これについては、100年後の歴史家の評価に委ねたい。ただ、生きる力を再び発揮できるようになる人を、日々目の前で(現場にいるジェンの同僚たちが)確認し続けていることもまた事実である。

地球という一つの家の家族のメンバー全員が支援を必要としなくなるまで、きっと私たちは心から安心して支援を終えることはできない。だから、事業地で出会ったその人達の持続的な幸せを支え、彼らが根本的な問題に取り組むその努力の美しさを伝え続けてゆく。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

スタッフの ひとこと

福岡の実家の庭に完成度の高いBBQ場ができており驚きました。近くの商店街に行くと、知らないオシャレな店が増え、迷子になりかけました。関東に出て10年程、帰省の度に変わる風景に翻弄される一方、それが良い方向に動いた結果だと感じ少し嬉しく思えます。JENの仲間となってまだ半年ですが、私自身そんな「良い方向に変えていく」風になれるよう、尽力していきます！(グローバル事業部・M.N.)

普通の暮らしを取り戻そうと努力する人びとを支える ジェンの活動をご支援ください

相続や遺贈などによるご寄付を承っています

紛争や災害で厳しい生活を強いられた人びとの自立を支える活動は、皆さまからのご支援で成り立っています。ジェンでは、相続や遺贈などによるご寄付を、少額から承っています。



活動地域を問わず 支えていただけるご支援 JEN寄付

活動地域を問わず、ジェンの活動全般を支えていただけるご支援が、JEN寄付です。ジェンの実施する緊急支援、水衛生支援、教育支援、子ども支援、女性のエンパワーメント、生計回復などの活動に、大切に活用させていただきます。



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示される場合がございます。間違って広告をクリックされないようご注意ください。
※ゆうちょ窓口・ATMで現金支払いの場合、同封の赤枠の振込用紙を使っても振込手数料が110円かかります。
※手数料についての詳細はゆうちょ銀行のホームページ (https://www.jp-bank.japanpost.jp/ryokin/rkn_sokin.html) にてご確認ください。

東京本部事務局の住所について

特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL : 03-5114-6201 FAX : 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>

NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo

@NGO_JEN

@ngo.jen

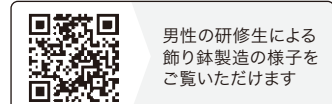


このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。





造花製造研修に参加するワヒダさんと女性たち

ビジネス開発研修に参加するワヒダさんと女性たち(上)
研修の修了証を受領するワヒダさん(中)
造花製造キットを受け取る女性たち(下)

今年の8月15日に、タリバンによる政権掌握から2年を迎えたアフガニスタン。国連の報告では、今年人口の3分の2に及ぶ人びとが人道支援を必要とし、1,500万人以上が、深刻な食糧不安に直面しています。また、女性を取り巻く状況は厳しさを増しています。中等以上の女子教育は停止され、公園やジムへの立ち入りは禁じられ、7月には美容室やヘアサロンの閉店が宣告されました。これにより、約6万人の女性が職を失ったと言われています。

ジェンが活動を行うナンガルハル県は、人道支援のニーズが高い地域のひとつです。実施している事業のひとつに、対象者世帯の経済状況の改善を目的とした生計支援事業があります。ジェンはこの事業で、技術を持たない方々に対しては、この地域で需要の高い、造花製造と飾り鉢製造の職業技術研修や道具類の提供を行っています。また、既に技術を持っている方々に対しては、靴やサンダル製造のための道具類や就業のノウハウ提供、事業開始のための支援活動も行っています。

対象は、労働社会局に登録している求職・職業研修参加希望者のうち、18〜35歳の国内避難民、帰還民、脆弱な受け入れコミュニティの方々です。研修後には修了者に対して技術サポートを提供。研修は、修了者と合意した場合雇用または下請けとして提携する意思のある工場で実施します。多くの製品の製造実績のある工場での研修を行うことで、市場で求められている技術を身に付け、収入を得て自立への一歩を踏み出すことを目指しています。

3人の子どもを持つワヒダさんは、この事業で造花製造の研修を受けました。夫に先立たれ、生活は厳しいですが、寡婦配付しました。震災発生直後に実施した調査で、緊急に必要なものは食糧や生活物資であることがわかりました。被災者の方々の心の苦痛を和らげ、感染症予防と健康のために衛生環境を整え、自立を支えること。この目的を果たすため、すぐに食べられる食糧や、飲料水、マットレス、毛布、乳児のための授乳キット、年齢・性別ごとに異なる衛生キットの配布を行い、累計1万人以上の方にお届けしました。また、トルコの被災地では貧困ライン以下で生活する世帯がトルコ全体の32%

でも、村人や親類から理解や共感を得られるのが難しいといえます。ここ数カ月、3度の食事をきちんと取ることでできず、小さな子どもは栄養失調になってしまいました。兄の狭い家に身を寄せて暮らし、収入は無く、10代の息子が洗車の仕事をして1日50アフガニー(1アフガニー=約17円)を稼ぎ、家族を養っていました。絶望的になり、自死を図ろうとしたこともありましたが、子どもたちがそれを思い留める力をくれたとのこと。研修を受けて市場で需要のある様々な花のデザインを理解し、ビジネス開発研修ではさらに多くを学んだと言います。3カ月の職業訓練後、幸運にも国際機関から生計事業の講師として、また、ある会社から技能労働者としてのオファーがあったそうですが、独立起業を決めました。国際機関とはパートタイムで契約することにしたそうです。現在では、自分のビジネスで1日平均500アフガニーの収入を得て、子どもたちを養い、将来のために貯蓄することも可能になりました。彼女は言います。「このような素晴らしい機会を与えてくれたジェンとそのスタッフに感謝します。私の人生は変わりました。」「厳しい人道危機の続くアフガニスタンで、ジェンは今後も人びとの自立を支える活動を行っています。」

アフガニスタン 生計支援事業 女性を含む、人びとの生計を支える

状況が好転し、過去の苦労がもはや無くなりました
受益者の声：アフメドさん

私は結婚しており、4人の子どもがいます。以前はシリア北部のアザズ市に住んでいました。2月6日に大地震が発生して、私はけがを負い、家は大きな被害を受けて住むことができませんでした。他に行く場所が無く、この地域に点在する避難キャンプを探し、最終的にこのキャンプにたどり着きました。始めはキャンプの住民の方の所に滞在させてもらいました。自分たちのテントが提供されるまでの間、様々な困難がありました。到着直後は冬の最



トイレ棟で手洗いをするアフメドさん

中で、絶え間ない雨で地面は泥のようになっていたのです。その上、キャンプ内のトイレの数は十分になく、トイレを利用するには長い間待たなければなりません。ジェンが提携団体を通じて水衛生の事業を実施したことで状況は好転し、完全に変わりました。トイレへのアクセスがとても簡単になり、過去に経験した苦労はもはやありません。このプロジェクトに携わり、キャンプの住民にこのサービスを提供してくれたすべての人びとに心から感謝しています。

皆さまよりクラウドファンディングや緊急募金という形で託していただいた温かいご支援で、ジェンは北西シリア・サルカン市のアル・アジャミ(Ai-Ajami)キャンプで水衛生事業を実施。手洗い場やシャワー室を備えたトイレ棟を10基建設しました。結果的に、1,800人以上の人びとがこれらのトイレ棟による便益を受けられるようになり



トイレ建設作業の様子



避難キャンプやトイレ建設の様子を映した動画をご覧ください

トルコ・シリア地震 シリアでの水衛生支援

ました。トイレ棟は人びとの暮らしの改善に繋がっています。皆さまからのご支援、本当にありがとうございました。

トルコ・シリア地震 トルコでの支援活動

国連の報告では、大地震から半年が経過した8月の時点で、トルコにおける震災の犠牲者は507,000人以上となり、被災地の全人口の20%以上を占める330万人の人びとが避難しています。被災地全体で200万人以上の方々が未だテントや仮設住宅に暮らし、その多くの人びとが清潔な水やトイレにアクセスできません。このような甚大な被害を生み出した震災発生後、ジェンは特に支援ニーズが高いと判断した南東部の都市、サンリウルファ(シヤンルウルファ)とカフラムンマラシュで支援物資を

支援物資の配布(サンリウルファ(シヤンルウルファ)) (上)
避難キャンプでの飲料水配布(カフラムンマラシュ) (中)
缶詰等、すぐに食べられる食糧セット(下)

配付した支援物資の種類と数(両都市合計)	
配布物資	数
マットレス	1,000
毛布	1,000
缶詰等のすぐに食べられる食糧セット	5,026
授乳キット	466
乳児用衛生キット	100
幼児用衛生キット	100
男性用衛生キット	350
女性用衛生キット	450
飲料水	29,300

よりも高い約40%で、さらに50%に上昇するとの予測もあります。被災された方の中には、シリアの紛争からトルコに難民として逃れて暮らしていた方や、難民の方々を受け入れたコミュニティの方々がおられます。こうした方々は新型コロナウイルスの影響や物価高騰のおおりに受け、地震以前から厳しい暮らしを強いられていました。ジェンは、今後も、トルコで厳しい暮らしを余儀なくされた方々への支援活動を継続してまいります。

※本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しました。